

《事務事業の手段と活動指標》【18】

事務事業を構成する細事業	手段(細事業の具体的内容)	活動指標	単位	H23実績	H24実績	H25実績	H26計画
① 高齢者等就業支援センター管理運営事業	高齢者等向けに各種講座を開催する。	講座開催数	回	179	64	114	123
②							
③							
④							
⑤							

《事務事業の成果》【19】

成果指標(意図の数値化)	計算方法又は説明	単位	H23目標	H24目標	H25目標	H26目標
			H23実績	H24実績	H25実績	
1 高齢者等就業支援センター利用者数	研修室等利用者数と講座受講者数の合計延べ人数	人	2,475	790	1,190	2,500
			2,722	1,128	2,381	
2 講座受講者満足度	講座終了後アンケートで有意義と感じた人の割合	%	90	90	85	85
			75	74	71	

《事務事業の評価》

評価項目	評価の視点	評価	評価の説明	
妥当性 (判定) A	実施主体の妥当性【20】	市が実施すべき事業か。また、民間やNPO等他の団体では実施できない事業か。	高齢者、障がい者、企業退職者の雇用促進のために必要な技術の習得、勤労者の福利厚生、余暇の充実の機会が失われる。	
	目的の妥当性【21】	税金を使って達成する目的か。また、役割が薄れていないか。		
	廃止・休止の影響【22】	事業を止めた場合、受益者に不利益が生じる等の影響があるか。		
有効性 (判定) C	目標の達成度【23】	成果指標の目標値は達成できたか。		施設設備の充実を図り、講座受講定員の増加を図る。また、開設講座についても工夫を行う。
	成果向上の余地【24】	成果がもっと上がる余地はないか。		
	上位施策への貢献度【25】	上位施策の目的達成に貢献しているか。		
効率性 (判定) C	コスト低減の余地【26】	コストの低減について、これ以上検討の余地はないか。	講座については、公民館講座との連携を強化していく(講座内容の重複を避ける、PCの貸与等)。また、民間委託などの民間活用について検討を行う。	
	民間の活用の余地【27】	民間委託など民間活力の活用について、これ以上検討の余地はないか。		
	執行方法改善の余地【28】	事務事業の執行上、簡素化又は改善できるプロセスはないか。		
	事業統合の余地【29】	類似する他の事務事業との統合について、これ以上検討の余地はないか。		
公平性	受益者負担の余地【30】	受益者負担について、これ以上検討の余地はないか。また、対象、負担額等は適切か。	研修室の使用料は、他の市施設とのバランスなどを考慮する必要がある。	

《今後の方向性と改善》

今後の方向性【31】	<input type="checkbox"/> 拡充して継続 <input type="checkbox"/> 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 縮小を検討 <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討 <input checked="" type="checkbox"/> 細事業の効率化【 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input checked="" type="checkbox"/> 民間活用 <input type="checkbox"/> 他事業と統合 <input type="checkbox"/> 廃止 】
判断理由及び見直し・改善の具体的内容	平成25年度より、介護予防教室に施設を貸し出し利用者増に繋がった。また、一部業務(講座開設事務等)をシルバー人材センターに委託して、事務の軽減を図ったが、他業務についても民間委託を行うなど適正な運営方法を検討する。
昨年からの見直し・改善状況【32】	平成26年度開設講座の一つとして、フリーレッスン(持ち込みPCによるワード、エクセル)講座を企画し、受講者の日頃の疑問等について解消を図る。また、講座受講者数の拡大を期待し、夜間開設講座も予定している。

■評価責任者記入欄■

評価責任者(課長)の所見【33】	今後、施設の維持管理費が課題となるが、市民の必要な技術の習得、勤労者の福利厚生、余暇の充実等には不可欠な施設であり、今後も予算等を考慮しながら、運営していきたい。	評価責任者 福田 高広
------------------	---	----------------